

旧吉野川自然再生事業

～コウノトリの餌場に適した湿地づくりなど多様な生物が生息・生育できる環境づくり～

旧吉野川自然再生事業とは

吉野川から分かれた旧吉野川・今切川は、河口堰によって上流側は安定した環境下にあります。しかし、近年は川辺の入り江や湿地が減少し、川の中には木々が増えてきています。また、周辺の水田やハス田も大きく減少しており、川とその周辺地域とのつながりが弱まっていることが課題となっています。

そこで、旧吉野川と板東谷川の合流部付近（津慈地区）において、湿地と周辺農地とのつながりを創出し、かつて生息していた多様な生物が生息・生育できる環境を再生する「旧吉野川自然再生事業」を実施しています。このプロジェクトでは、コウノトリの採食に適した湿地の再生を目指し、地域の生態系を支える重要な拠点とすることも目指しています。「旧吉野川自然再生事業」は、国土交通省と鳴門市などの自治体、民間企業などが協力して取り組んでいる事業です。

旧吉野川自然再生事業の事業箇所



吉野川における事業の動画紹介

旧吉野川
自然再生事業



(他の事業紹介)

三庄地区 吉野川上流
かわまちづくり かわまちづくり



事業評価アンケート

ご協力をお願いします。

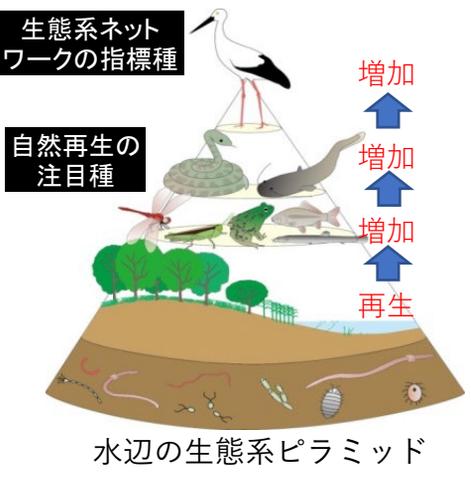


回答期間
7月22日 (火) ~ 8月17日 (日)

【整備前(現在)】 現在、草木が生い茂り、生物の多様性もなく景観もよいとは言えない状態です。



【整備後】 河川改修で掘削する水辺を利用し、川とつながりをもつ湿地や水路などを再生することで、メダカやタナゴなど多様な生物の棲み処となります。コウノトリの餌場にもなり、環境学習・エコツアーなどの地域活動の場所にもなることが期待されます。



旧吉野川自然再生の注目種 (一例)



期待される効果

- 湿地や河川と水源等の連続性を必要とする多様な生物の生息場が創出されます。
- コウノトリの餌場となるシンボリックな場が創出されます。
- 地域の魅力が向上し、シンボル (コウノトリ等) を活かした地域活性化につながります。